



地域を守る・地域で守る

自主防災組織

■ 自主防災組織をつくろう

阪神・淡路大震災では、生き埋めや建物などに閉じ込められた人々のうち、消防などの公的機関（公助）による救出はわずか2%で、多くは自力または家族や隣人などの地域住民によって救助されています。地域住民が連携・協力し、救助や消火にあたることで被害を最小限にすることがつながります。自分と自分のまちを守るために自主防災組織を結成し、「災害に強いまち」をつくりましょう。

■ 自主防災組織の役割

地域内で防災活動を行う自主防災組織の役割としては、次のようなことが考えられます。
いざというときのために、平常時から地域で連携・協力をしながら防災活動に取り組むことが大切です。

【平常時の活動】

項目	具体的な活動内容
防災知識の普及啓発	勉強会（講習会）の開催など
地域の安全確認	地域内の危険箇所の把握と防災マップの作成など
防災訓練の実施	初期消火訓練、情報伝達訓練、避難訓練など
防災資機材の点検整備	防災資機材（ヘルメット、担架、リヤカー、バケツなど）の管理

【災害時の活動】

項目	具体的な活動内容
情報の収集伝達	地域内の被害情報などの収集や防災機関への伝達、役場や消防署などからの情報の住民への周知
初期消火	消火器やバケツリレーなどによる初期消火活動
避難誘導	災害時要配慮者への援助、住民の安否確認、避難誘導など
救出救護	簡単な工具・防災資機材を使用した救出、負傷者の救護など
給食給水	食料・飲料水の調達と炊き出しなど

■ 自主防災組織補助金

自主防災活動の促進を図るため、自主防災組織が活動上必要な防災資機材（ヘルメット、担架、リヤカー、バケツなど）の購入に対して補助をします。

（概要） 補助対象団体……自主防災組織
補助金の額……事業（購入）費の10分の9（限度額：45万円）

詳細については、下記までお問い合わせください。

問合せ先 防災安全課 ☎34-8721

自主防災組織とは

自主防災組織とは、地域住民が連携・協力して防災活動を行う組織のことをいいます。日頃からの防災に関する意識の向上や災害が発生したときに地域の被害を最小限に抑えることが自主防災組織の役割です。



■ 防災・減災の要となる「共助」

災害が起きたときに必要な助けや支援には、①自分の身は自分で守る「自助」、②役場や消防・警察などが行う「公助」、そして、③自分たちの住んでいる地域は自分たちで守る「共助」の3つがあります。その中でも住民自身が協力して自分たちの身を守る「共助」は、防災の要といえます。災害時には、隣近所の人たちと協力して被害にあった人たちの救助・救援活動をしなければなりません。そのために自主防災組織の役割が大切になります。

